

日本気象学会および関連学会行事予定

行事名	開催年月日	主催団体等	場所	備考
日本気象学会 平成元年度春季大会	平成元年5月24日 ～26日	日本気象学会	気象庁	Vol. 35, No. 12
理工学における同位元素 研究発表会	1989年7月3日 ～5日	同運営委員会	国立教育会館	Vol. 36, No. 1
Fifth Scientific Assembly. IAMAP	1989年7月31日 ～8月11日	IAMAP (International Association of Meteorology and Atmospheric Physics)	Reading, U.K.	
第12回極域気水圏シンポ ジウム	1989年7月18日 ～19日	同運営委員会	国立極地研究所	Vol. 36, No. 4
国際シンポジウム Assimilation of Observations in Meteorology and Oceanography	1990年7月9日 ～13日	WMO	フランス, Clermont- Ferrand	Vol. 36, No. 3
第7回エアロゾル科学 技術研究討論会	平成元年8月22日	エアロゾル研究協議会	東海大婦恋高原 研修センター	Vol. 36, No. 3
International Conference on Modelling of Global Climate Change and Variability	1989年9月11日 ～5日	Meteorologisches Institut der Universität Hamburg	ハンブルグ大学	
第13回レーザーセンシ ングシンポジウム	平成元年10月2日 ～3日	同実行委員会	九州大学	Vol. 36, No. 4
都市気候・建築・計画に 関する国際会議	1989年11月6日 ～10日	日本気象学会, 日本建築 学会 WMO, IAHP, IBP	京都国際会館	
日本気象学会 平成元年度秋季大会	平成元年11月7日 ～9日	日本気象学会	那覇市	

日本気象学会国際学術交流基金への募金のお願いと寄付者御芳名

日本気象学会は、かねてから各国の気象関係組織および研究者との学術交流を図るため、国際学術交流基金を設けて、学会もしくは会員の学術交流の援助を目的とした活動を致しております。実施にあたっては、外国で開催される国際学術研究集会への会員の出席の補助、国際学術交流に貢献する事業の援助などです。

本来この基金は、少なくとも二千万円程度の元金があつて、その利息で活動費をまかなうことを目標としていますが、現在のところ、その過渡期として、学会自身の年間予算から毎年約百万円を積み立て、並行した、わず

かの一般事業費と篤志による個人寄付金で活動を行っております。

基金の基礎を固めるためには、是非、会員の皆様からの御寄付をお願いします。理事会としては、さらには大口の団体寄付を仰ぐべく努力致す所存です。国際学術交流基金の趣旨を御理解いただき、11月号挿入の振替用紙を御利用の上、一口千円として、なるべく多くの御寄付をお願いします。

平成元年4月

日本気象学会

平成元年3月31日現在、下記の会員からご寄付がありましたので、お礼を兼ねて報告申し上げます。

以上 金額 100,000円
累計 266名 13団体 8,946,100円

記

富士通株式会社

1.3.31 現在 国際学術交流基金額 19,726,755円